

技術情報

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

イチゴ炭疽病の防除の徹底について

イチゴ炭疽病は、育苗期の防除を徹底することが重要です。

7月2半旬に、県下20か所の育苗床の苗から下位葉を採取し、エタノール浸漬による簡易診断法で炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率及び同確認ほ場率はほぼ前年並でした（別表）。健全な苗の確保に向けて、防除の徹底を指導願います。

- 
- 1 作物名      イチゴ
  - 2 病虫害名    炭疽病
  - 3 イチゴ炭疽病の潜在感染株調査結果  
炭疽病潜在感染株率      20.8%（前年21.3%）  
葉枯炭疽病潜在感染株率    1.0%（前年12.5%）
  - 4 防除上注意すべき事項
    - (1) 葉かぎなどの管理作業時に苗をよく観察し、葉や葉柄に発生した病斑の早期発見に努め、罹病株及び周辺の株は直ちに除去すること。
    - (2) 飛散する水滴が大きなスプリンクラーかん水や、頭上からの強いかん水は、病原菌が飛散し、感染を助長するので避け、水滴の細かな散水法で行うこと。
    - (3) ポット間隔が狭いと風通しが悪く湿度も高くなるため、感染が拡大しやすい。ポット間隔は18cm程度確保すること。
    - (4) 低温処理時の注意
      - ア 夜冷短日や低温暗黒などの処理は、株へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、感染が疑われる苗は使用しないこと。
      - イ 株冷のコンテナや夜冷庫に苗を詰めすぎないこと。
      - ウ 株冷入庫前、陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意すること。
    - (5) 薬剤防除
      - ア 薬剤散布は、葉かぎ作業後や降雨前後を中心に行うこと。
      - イ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行うこと。

表 イチゴ炭疽病 潜在感染株調査 (単位 ; %)

調査地点		Glomerella cingulata による炭そ病	Colletotrichum acutatumによる炭そ病(俗称:葉枯炭そ病)
本所	前原市本	20	0
	福津市須多田	0	0
	久留米市田主丸町牧	0	0
	久留米市宮ノ陣町	0	0
	筑前町栗田	25	0
	福智町伊方	0	0
筑後支所	八女市蒲原	10	0
	筑後市上北島	20	5
	大川市兼木	0	0
	大木町蛭池	5	0
	黒木町串毛	5	0
	広川町太田	10	0
	広川町水原	0	0
みやま市高田町黒崎開	15	0	
行橋支所	岡垣町吉木	80	5
	岡垣町吉木西	50	10
	行橋市二塚	35	0
	豊前市荒堀	50	0
	豊前市久路土	15	0
	みやこ町豊津徳政	75	0
本年潜在感染株率		20.8	1.0
前年潜在感染株率		21.3	12.5
本年潜在感染株確認ほ場率		70.0	15.0
前年潜在感染株確認ほ場率		60.0	35.0

注1 調査地点は県内のイチゴ育苗期の定点調査ほ場20か所

1地点20株、1株あたり下位葉2~3枚を採取した。

注2 採集は7月2半旬、処理は7月3半旬、判定は5半旬(2週間後)に行った。

注3 検定手順

(1) 検定葉を70%エタノールに30秒浸漬後、水洗する。

(2) 滅菌水で湿したろ紙を敷いたシャーレに検定葉を収め、恒温器に静置する。

(本所、筑後支所 25、行橋支所 28)

(3) 検定葉を鏡し、炭疽病菌の有無を確認する。